

(別紙2 - 1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24年 10月 25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300504		
法人名	有限会社 プレア企画		
事業所名	グループハウスおよりの郷		
所在地	島原市鎌田町丁4 1 3 3番地		
自己評価作成日	平成24年10月27日	評価結果市町受理日	平成24年11月6日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所一階
訪問調査日	平成24年10月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在、およりの郷 では、9名の方々が入居され共同生活を営まれております。この9名の方々には、それぞれ異なった生活歴をお持ちです。そこで、『のどか、のんびり、ゆったり』の理念に基づき、入居者の方々の個性を尊重し、一人一人が自分らしく生活して頂けるように支援していく事をモットーとしております。共同生活のため、ある程度の制限があるかもしれませんが出来る限り皆さんが、自由に、自分らしく、生き生きと暮らせ、人生の楽しい思い出になるよう心より応援したいと考えております。かつ、家族の方々とのコミュニケーションを大切にして、家庭的で優しく暖かな介護を目指して頑張っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

「のどかに暮らす」という運営理念が活かされ、事業所に入ると職員が元気に温かい笑顔で迎え、何かホッとする雰囲気がある。
職員は利用者と一緒に、下肢筋力低下予防に取り組んでいるほか、懐かしい歌や童謡を楽しそうに歌い、利用者の目線で優しく話しかけるなど、自然体で寄り添っており、職員一人ひとりの介護の質の高さが感じられる。また、准看護師職員は「利用者の役に立ちたいので早く正看護師になりたい」と意向を述べるなど、職員は向上心を持って働いている。

代表者は、既に他の法人内事業所で身障者を介護職員として雇用している。さらに身障者の雇用促進を図りたいと地域の社会福祉に情熱を傾けている。

また、規則を押し付けるのではなく、利用者が、温かく家族に見守られ暮らしているような生活支援を行いたいと抱負を述べるなど、代表者の信念が、職員一人ひとりに浸透し利用者の穏やかな表情に繋がっている。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>運営者、管理者、スタッフが業務に取り組む心構えを基本として理念を作り上げた。</p>	<p>理念に基づき利用者を家族と思い、笑顔で接している。全職員が理念を共有し日々の支援の中で、具体的なケアに繋げている。</p>	
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の行事等に積極的に参加し、地域の方たちと入居者の皆さんとの交流に努めている。</p>	<p>近所の住民から野菜・果物の差し入れ等の交流がある。また近くの保育園児と、七夕の笹飾りを行うなどのふれあいがあり、利用者の楽しみのひとつになっている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>ボランティアや実習生を積極的に受け入れて介護技術の講習や認知症理解への啓蒙活動等を行っている。</p>	/	/
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域の代表の方の参加し、入居者の方の近況報告だけではなく、GHの業務の流れや介護保険等についての質疑応答なども行い、家族や地域の方たちとの相互理解に努めている。</p>	<p>自治会の加入はないが、参加者から地域の情報提供があり、運営上有意義な会議となっている。今後、警察・消防署にも参加要請を行い、地域の防犯・防災情報を得ていきたいとしている。</p>	
5	4	<p>市町との連携</p> <p>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>市町村の実施する研修等出来るだけ参加するようにしている。</p>	<p>施設長は市老人福祉計画策定委員等の要職に就き、常に介護福祉現場の声を市担当者に届け、意思疎通を図っている。</p>	

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>現在、拘束の実績は無いが拘束についての意見交換を職員間で行っている。</p>	<p>管理者は、随時、職場研修を行い、職員の身体拘束廃止への理解を図っている。また職員は何が拘束にあたるかを職員間で共有し拘束の無い支援を行っている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止について、職員間で意見交換を行っている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>包括支援センターや参考資料を基に、職員間で意見交換をし、必要な方には説明をしている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に十分な説明を行っている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情発生時には、話し合いの場を設けて解決に努めると共に、第三者機関の説明も行っている。</p>	<p>意見や要望を詳細に聴く姿勢ができています。「本人がハウス内で楽しくおしゃべりができるようにして欲しい」という要望に、席替えをする等の対応を取り改善したことに、家族から喜ばれたケースがあった。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>年1回、大全体会議、各事業所ではその都度意見交換をし、反映するようしている。</p>	<p>職員は管理者を通して要望を伝え、また全体会議でも自由に意見が述べられている。備品の選定や休暇の要望等、職員の意見・意向が反映されている。</p>	

12	<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>必要に応じて、経営者・管理者が個別面談を行い、相談等を行っている。</p>		
13	<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>経験の浅い職員には、研修等に参加すると共に、ベテラン職員によるOJT教育等も実施している。</p>		
14	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>既存のネットワークに、研修等を利用し他機関の職員との交流を積極的に図り、強化・活用に努めている。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>アセスメント情報を基にして、生活歴等を考慮した本人に見合った介護を行うことに心がけている。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>インテーク時より家族の意見をよく傾聴して、家族も含めた包括的な支援を心がけている。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族・本人とよく話し合い、ニーズの決定を行っている。</p>		

18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ホーム内の簡単な業務（洗濯物たたみやテーブルふき等）を共同作業という意識を持って行っている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の面会時等に、話し合いの場を設定して包括的な支援を行っている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうち、支援に努めている</p>	<p>馴染みのかたが来所された時は、快く迎えてこれまでの関係が継続できるようにしている。</p>	<p>病院受診の帰りに馴染みの場所に立ち寄り、家族と個別に出かける支援もある。来訪の無い利用者の家族等にはメールなどで近況報告を行い、関係継続の支援を工夫している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>レクリエーションや行事等を通じて入居者間の交流を図り、全員が楽しく過ごせるように、働きかけている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後も相談があれば、親身になって応じている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>意思表示等困難な方には、アセスメントや日々の様子等で感じた事や訴え等に共感する姿勢で本人の気持ちを汲むよう心掛けている。</p>	<p>入居時のアセスメントに、その後、ゆったりと寄り添って、話を聴く中で得た生活歴や思いを全職員の連携で追加記入し、利用者本位の暮らしの支援を実践している。</p>	

24	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>インタビュー・アセスメント時に、家族や本人から得た情報を基にしてケアプランを作成し、それに基づいて、いままでの生活環境を少しでも保てるように支援している。</p>		
25	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>ケース記録や連絡帳、申し送り等を活用して継続的な支援が行えるように努めている。</p>		
26	10 <p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>家族の意見や職員の意見等を、ケース会議を通じて介護支援専門員が取りまとめて、ケアプランに反映している。</p>	<p>利用者・家族の要望や意見を反映して作成したプランは、全職員での話し合い、モニタリングで、3ヶ月毎に見直しを行っている。目標設定には利用者、家族に確認、同意を受けている。</p>	
27	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケース記録を毎日記録して、日々の状態の把握に努めている。</p>		
28	<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>新しいニーズが発生した場合は、ケース会議を開催して問題解決に努めている。</p>		
29	<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>インターネットや地域情報誌・研修会等を活用して、地域資源の把握に努めている。</p>		
30	11 <p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所時に、かかりつけの医療機関と連携を取り、入所後の連携構築に努めている。</p>	<p>本人・家族の希望する医療機関受診を基本としている。月一回の受診支援時には、医療機関との情報共有を密にして連携し、家族・職員との情報共有も図られている。</p>	

31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携を通じて、看護師との連携を図っている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院中も医療機関と連携を取り、退院後の支援に努めている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ターミナルケアや重度化に関する研修を行い、将来に向け、準備を行っている。</p>	<p>入居時、指針を説明し理解して頂き、同意書で意向確認を得ている。現時点では緊急時には救急搬送を要請しているが、今後ハウス内での即応体制の必要性も予測されることから、看護師配置の充実等対応の強化を図りたいとしている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員は、救急救命法の講習を積極的に受講し、AEDのリースを検討中。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防等の防災機関と連携をとり、実施する予定である。地震や津波等災害に応じた計画を検討中。</p>	<p>非常食の備蓄（写真付きリスト作成）、緊急時持ち出しファイルは整っているが、日程の都合等で避難訓練が未実施となっている。</p>	<p>利用者・職員全員での夜間・昼間想定での避難訓練の早急な実施を期待する。またその際、消防署などの立ち合いで避難経路指導を受け、近隣住民への協力要請にも期待したい。</p>

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本情報やケア・プランに基づき、個々人に見合った支援を行うように心がけている。 「自分がされて嫌なことはしない」を基本とし、一人ひとりに応じた、人格を尊重した言葉かけなどの支援を実践している。特に排泄時にはプライドを尊重した対応を行っている。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の業務の中で、本人との会話の中から、本人が望む生活を聞き出し、少しでも実現するように心がけている。
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が出来る限り、本人のペースで生活できるように努めている。
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に職員が気を配り、身嗜みの支援を行っている。
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事が出来るように、職員全員が心がけている。 栄養士による献立に工夫を加えて調理をしている。また食事中は利用者が安心して安全に食事ができることを第一に考え、個々人の観察にも注意を払っている。また外出した際の外食や家族による外食支援もある。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューを基に、バランスが取れた食事を提供している。
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各自の出来る部分と出来ない部分を見極めて、本人に適した支援を行っている。

43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>介護の必要な入居者に対しては、自尊心に十分配慮した支援を行っている。</p>	<p>日中は、そぶりや時間を見計らいトイレ誘導を行い、排泄パターンに応じた個別の支援を行っている。オムツ使用者は数名いるが、全居室にトイレが設置されており、夜間も含めてポータブルトイレの使用はない。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食物繊維の多く含まれる、食材を使用したり、医療機関と連携して服薬による便秘予防に努めている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>本人のADL状況に見合った支援を行い、「楽しく入浴する。」ことを前提としている。</p>	<p>年を通して週2～3回、本人の希望や健康状態を考慮して、入浴支援を行っている。入浴拒否の利用者に職員と一緒に入浴してコミュニケーションを図ったことで、以後入浴するようになった利用者もいる。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個々人の習慣に合わせた支援を行い、安心感が持てて、生活できるようにしている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>投薬ミスを起こさないことを最大限の支援として、服薬後は、様子観察等を行い、本人の状態把握に努めている。</p>		

48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>ホームの生活の中で、その人に見合った役割分担を行い、生活の中に生き甲斐が持てるように支援している。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>日課の中に、ドライブや散歩を取り組み、外出の機会を確保するようにしている。</p>	<p>毎年マイクロバスを利用しての利用者全員での花見や、近隣には四季折々の花を咲かせる場所も多く、2～3人でのドライブにも出かけている。また家族からの外出支援もある。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自分自身で金銭管理が出来る方は、職員支援の下、管理していただいている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話・通信等の制限は、常識の範囲内で行っていない。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングには、職員と入居者の方たちの共同制作のハンド・クラフト等で飾りつけがしてあり、暖かい雰囲気を作っている。</p>	<p>朝日が差し込む窓辺にゆったりとしたソファが置かれ、畳の部屋も隣接し、快適な空間となっている。行事写真や利用者が作成した絵手紙が丁寧に貼ってあり、温かい雰囲気がある。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビング内に、ソファを配置して、入居者間の憩いの場として、活用している。状況に応じ、席替えをしている。</p>		

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、個人の自由空間として、安全上問題の無いものは、持ち込み自由としている。	個室にはトイレ部屋が設置され、排泄のプライバシーが確保されている。またクローゼットの備え付けですっきりした部屋になっており、利用者は思い出の物に囲まれ落ち着いた生活をされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々人の適正に合わせた役割分担を決めて、情緒を配慮しながら生活の活性化に努めている。		

アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない